

製品名: 切断型カスパーゼ 5 p10 (S331) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08961**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	10kDa

抗原情報

遺伝子名	CASP5
別名	CASP5; ICH3; Caspase-5; CASP-5; ICE(rel)-III; Protease ICH-3; Protease TY
遺伝子 ID	838.0
SwissProt ID	P51878
免疫原	抗血清はヒトカスパーゼ 5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 312-361

背景

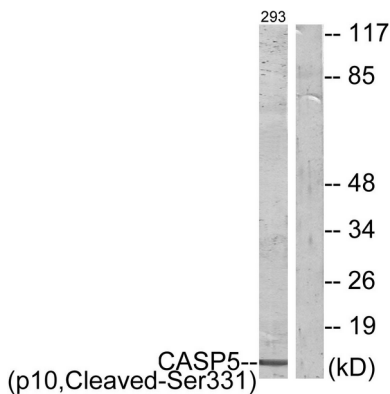
この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーのメンバーをコードしています。カスパーゼの連続的な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たしています。カスパーゼは不活性なプロ酵素として存在

し、保存されたアスパラギン酸残基においてタンパク質分解処理を受けて大小2つのサブユニットを生成します。これらのサブユニットは二量体化して活性酵素を形成します。この酵素の活性型の過剰発現は、線維芽細胞でアポトーシスを誘導します。細胞の成長、分化、およびアポトーシスに重要な Myc/Max/Mad 転写制御ネットワークの中心的構成要素である Max は、このタンパク質によって切断されます。このプロセスには、Fas を介した Max の脱リン酸化が必要です。この遺伝子の発現は、インターフェロン- γ およびリポ多糖によって制御されます。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2010年8月]、触媒活性: P1 位置に Asp が厳密に必要。優先切断配列は Tyr-Val-Ala-Asp-| ですが、Asp-Glu-Val-Asp-| でも切断されます。機能: プログラム細胞死 (アポトーシス) のメディエーターです。PTM: 2つのサブユニットは、自己触媒メカニズムによって前駆体配列から派生します。類似性: ペプチダーゼ C14A ファミリーに属します。類似性: 1つの CARD ドメインを含みます。サブユニット: 20 kDa (p20) および 10 kDa (p10) のサブユニットによってそれぞれ形成された、逆平行に配置された2つのヘテロダイマーで構成されるヘテロテトラマーです。組織特異性: 脳を除くほとんどの組織ではほとんど検出されない量で発現され、最も高いレベルは肺、肝臓、および骨格筋で見られます。、

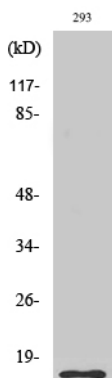
研究分野

NOD 様受容体;

画像データ



エトポシド 25 μ M で 1 時間処理した 293 細胞ライセートの、カスパーゼ 5 (p10,Cleaved-Ser331) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



切断型カスパーゼ 5 p10 (S331) ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析